



東地中海地域ニュース

イスラエル：パレスチナ挙国一致内閣に対する反応

(3月19日付現地報道)

- 3月18日の閣議及び協議でのペレツ国防相による交渉再開提案とその反応
 - ペレツ国防相はオルマート首相に対し、パレスチナ挙国一致内閣に対するイスラエルの適切な反応は、アッバース PA 大統領に最終地位合意に関する交渉開始を呼びかけることであると提案し、アラブ連盟会議前にイスラエルが同提案を行うべきだと述べた。
 - 同提案に対しオルマート首相は、最終地位に関する交渉を行えば、2000年のバラク前首相のキャンプ・デーヴィットの時のようにインティファダの再開に終わると警告した。
 - オルマート首相とペレツ国防相の意見の相違にも関わらず、閣議は、タミール教育相、マジアドラ無任所相（両者とも労働党）の棄権以外、イスラエルが挙国一致内閣を承認しないことに合意した。
- イデオット・アハロノット紙論説（セヴェル・プロツケル論説委員）
 - 今後イスラエルの取りうる第一のオプションは、政府がハマスに対するボイコットの決定をより多く行い、欧州各国がハニーヤ政権を承認しないことを祈るという現状維持であり、このオプションを採択した場合の必然的結果は、世界が、ハマスがパレスチナの正当な代表者であることを承認することである。
 - 第二のオプションは、政権転覆を狙ったパレスチナ人に対する軍事的圧力であるが、現在、イスラエルがシャリート兵士の解放なしにガザ地区での停戦に合意し、アッバースがハマスと同盟を締結した後では、このような軍事的オプションはなくなった。
 - 現在、最も現実的な第三のオプションが残っている。パレスチナ政府と直接的な政治的対話を開始すること、即ちハマスとの交渉である。
- ハアレツ紙論説（アルフ・ベン論説委員）
 - イスラエルがハマスとの対話を実施すべき6つの理由：パレスチナ側の強い方と話す価値がある、停戦にはイスラミック・ジハードが従っていないが、ハマスはイスラエルとの停戦に責任をもつ、ハマスが2年以上前に停戦に合意して以降、ファタハ指導時に比べ、テロ攻撃で殺害されたイスラエル人の数は少ない、ハマスの方がファタハより規則的かつ規律的な組織である、ハマスはファタハほど、検問所や分離バリア等の人権侵害問題に関する主張を行わない、ハマスの立場とオルマート首相及びリブニ外相との立場の隔たりは見た目より遥かに小さく、ハマスの提案する長期停戦「フドナ」は、本質的にオルマート首相とリブニ外相の提案する長期的暫定合意と変わらない。
 - しかしながら、イスラエル内でハマスとの対話に関する議論はなく、オルマート首相に立場の変更を求める外的圧力もない。国際社会の立場が変わった場合、もしくはハマスが突如カルテットの三条件に対する立場を緩和させた場合にのみ、イスラエルはハマスとの対話に関する問題に真剣に取り組まねばならなくなるだろう。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799